

これからの医療とまちづくりシンポジウム 2018 主催者挨拶

21世紀が始まって20年近くが過ぎ、平成の時代も幕を下ろそうとしています。

私どもMOAが、健康法と哲学をもって医学の分野に、ひいては社会に、時代にどのようなコミットができるのか――。

そのことを自問しつつ、科学的な研究発表と情報交換に本格的に取り組んでからも、はや10年となりました。

それを記念するような、あるいは集大成するようなシンポジウムを、開催できますことを本当にありがたく思っております。

経済、科学技術、国際情勢など、困難と飛躍の相半ばする時代に私たちは生きています。

人工知能（AI）の発達と多方面への応用、あるいは働くことと豊かさの関係といったことにまつわるさまざまな課題が目の前にあります。

人間とはいったいどういう存在なのか、なんのために生きているのか――その根源が一人一人に問われているのではないのでしょうか。

さらに今年は相次ぐ自然災害の中で、痛みや悲しみとともに、私たちの社会はこのままで良いのか、文明はいかにあるべきだろうかと、あらためて大きく問われています。

こうしたことを皆さんと一緒に考え、行動するMOAでありたい。

事実に基づいて提言できるMOAでありたい。

創始以来の変わらぬ願いであります。

その一つの具体化としてここに、統合医療、倫理、社会学、そしてまちづくりの一線級の先生方を招き、シンポジウムを開催させていただくものです。

人類が経験したことのない『超・超高齢社会』を控えて、医療・介護はどうなっていくべきなのか。

地域の力がどのように発揮されていくのか。

命、健康に関わる考え方が、いかなる転換を迎えるのか。

熱い講演と討論が心待ちにされます。

これを契機として、より多くの方、多くの団体と一緒に、新しい医療、新しい社会、そして新しい生き方の実現に向かって歩んでいけるものと期待し、確信しております。

以上